

大学の世界展開力強化事業

令和4年度予算額(案)
(前年度予算額)

11億円
10億円)



趣旨

世界的に学生の交流規模が拡大する中において、我が国にとって重要な国・地域の大学と質保証を伴った連携・学生交流を戦略的に進め、国際的通用性を備えた質の高い教育を実現するとともに、我が国の大学教育のグローバル展開力を強化する。

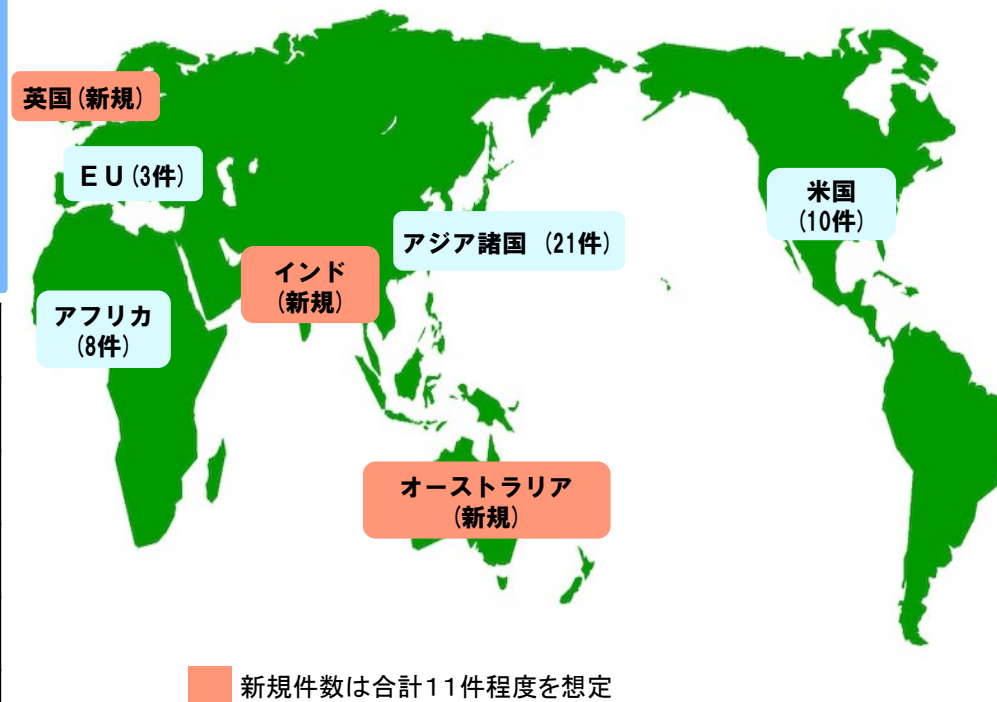
事業概要

地域毎の高等教育制度の相違を超え、単位の相互認定や成績管理、学位授与等を行う教育交流プログラムの開発・実施を行う大学を支援。これら質の保証を伴ったプログラムにより、日本人学生の海外派遣と外国人学生の受入を促進。(事業期間：最大5年間)

取組例

- ✓ 先導的・大学間交流モデルの開発
- ✓ 高等教育制度の相違を超えた質保証の共通フレームワークの形成
- ✓ 単位の相互認定、共通の成績管理の実施
- ✓ 学修成果や教育内容の可視化
- ✓ 国際共修、インターンシップ、オンラインを活用した国際協働国際共修学習等

補助期間	対象国	金額
2018 ~ 2022	米国	1.7億円
2019 ~ 2023	EU	1.3億円
2020 ~ 2024	アフリカ	1.1億円
2021 ~ 2025	アジア諸国	2.8億円
2022 ~ 2026	インド太平洋地域等	3.3億円



成果

1. 学生交流増による、留学生30万人受入、日本人学生12万人海外派遣(2020年まで)達成への貢献
2. 海外連携大学との教育プログラム構築・実施に伴う我が国大学のグローバルな展開力の強化
3. 交流の相手国・地域との平和的友好関係の強化

※上記の他、審査・評価等経費(0.4億円×1件)

大学の世界展開力強化事業プログラム一覧

2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025

※機関数は、日本側参加機関（短期大学等を含む）

交流実績（延べ）2011年～2020年

派遣 約18,000人
受入 約16,000人

キャンパス・アジア（モード1）&ASEAN&米国等

25件、22機関（実績：派遣4,820人、受入3,604人）

ASEAN 14件、15機関（実績：派遣3,744人、受入3,109人）



AIMSプログラム※
※東南アジア教育大臣機構が実施する学生交流プログラム
7件、11機関（実績：派遣758人、受入812人）

ICI-ECP ※
※日EU共同学生交流プログラム
5件、15機関（実績：派遣132人、受入144人）



ロシア・インド（H26採択）
9件、8機関（実績：派遣1,170人、受入1,296人）



中南米 & トルコ
11件、21機関（H27～H30実績：派遣1,207人、受入1,324人）



アジア諸国（キャンパス・アジアモード2を含む）
25件、23機関（H28～R2実績：派遣3,801人、受入3,492人）



ロシア・インド（交流推進/プラットフォーム構築型）
11件、12機関（H29～R2実績：派遣1,010人、受入896人
R3計画：派遣336人、受入312人）



米国等（COIL型）（交流推進/プラットフォーム構築型）
10件、13機関（H30～R2実績：派遣1,286人、受入1,275人
R3～R4計画：派遣1,201人、受入792人）



EU 3件、5機関（R2実績：派遣12人、受入19人
R3～R5 計画：派遣64人、受入86人）
※R1は準備期間のため、派遣・受入なし

アフリカ 8件、9機関（R2実績：派遣27人、受入40人
R3～R6 計画：派遣853人、受入640人）

アジア諸国（キャンパス・アジアモード3を含む）
20件採択
※上記の他、ルールメイキング事業としてTNIADを選定



大学の世界展開力強化事業 ～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～

令和4年度予算額(案) 3億円(新規)



背景・趣旨

- ◆ 新型コロナによる留学生市場のリセット(オンライン活用、英語圏優位からの変化、留学生多様化の模索)
- ◆ 予測困難な時代を迎える中で、自ら**主体的に考え、責任ある行動**をとり、**果敢に挑戦し続ける**個人を育てることが、高等教育の果たす役割としてより一層重要
- ◆ この機を逃すことなく、**英語圏からの優秀な留学生の獲得**に向けての基盤形成(初等・中等教育段階における日本社会・文化・言語等に触れる機会含む)、これに繋がる組織的・人的国際ネットワークに対する戦略的・集中的な投資の必要性
- ◆ **経済安全保障の観点**から、民主主義や人権、法の支配といった基本的な価値観を共有する国、かつ、国際競争力の土台となる**研究力の高い国**との間で、大学・学生間交流を促進し、戦略的な国際ネットワークを草の根の段階から強化することが極めて重要

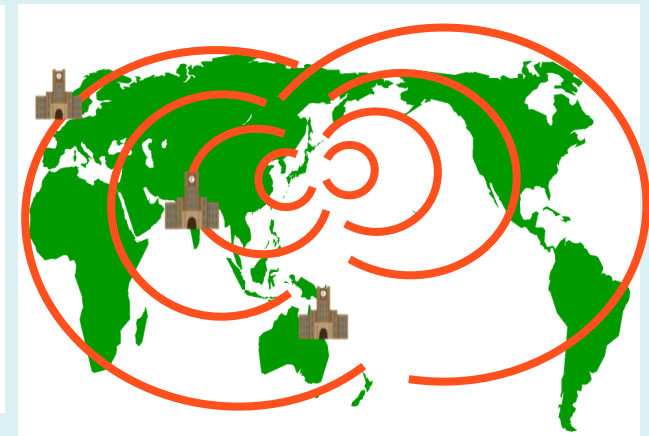
事業概要(事業期間:2022~2026年の最大5年間)

- 日本と、**オーストラリア、インド、英国**との間で、**2国間以上(左記の3か国に加え、米国、カナダ、ニュージーランド等との3か国以上の交流も可)**の質保証を伴った**大学間・学生交流プログラム**を構築
- 大学間協定等に基づき、**卓越した教育効果**を生む交流プログラムとするとともに、**多様な留学生**を戦略的に取り込む**バランスの取れた双方向型の学生交流**を実施
- 事業規模 **3,000万円×11件程度(各国3~5件程度)** ※

<取組(アウトプット)例>

- ・**学生が企画・立案する国際ネットワーク**の形成に繋がるような取組(学生サミットや学生ワークショップ等)
- ・**国際標準の連携教育プログラムや共同学位プログラムなどの多様な留学メニュー**の開発・提供
- ・実渡航の交流に加え、オンラインを活用した国際協働学習や、「**JV-Campus**」を通じ、**日本語・日本文化科目だけでなく教養・専門科目等の提供**
- ・受入地域の自治体や企業等と連携した**インターンシッププログラム**や、地域固有の課題等解決のため、**国内・国際学生の混成チーム**による、**起業につながるような実践型プログラム**の企画・実施
- ・日本への**留学フェアやバーチャル・キャンパスツアー等の広報活動**を、採択校だけでなく国内他大学と連携して実施するとともに、現地の高等学校等の教育機関への戦略的なリーチ活動の実施

※公募審査においては、採択大学の多様化を意識し、**地域バランス**や**採択実績の有無**にも配慮。



アウトカム(成果目標)

- 国際教育連携や大学・学生間国際ネットワーク形成の加速
- 語学力の向上だけでなく、協働による**異文化適応力やリーダーシップ**の強化による**グローバル人材**の養成
- オンライン交流や短期留学をきっかけとした、**中長期留学や学位取得型留学**への拡大
- **留学生層の掘り起こしとインバウンド需要の拡大**による、我が国大学の**多様性、国際通用性の向上**

インパクト(国民・社会への影響)

- グローバルな交流や視点の取り込みによる**新たな仕事・雇用の創出と経済成長**の実現
- 新たな留学生層の受入れ増による、**多様性のある社会**の実現に貢献
- 高い研究力を有する国と連携することで、国際共同研究を加速、両国の**国際競争力の更なる強化**に貢献
- 我が国が高等教育分野の**アジアのハブ**となることで、日本のプレゼンス向上と、世界の**パワーバランスの調和**に貢献